

環境に配慮した取り組みの紹介

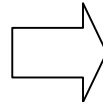
地域性苗木植栽箇所の自然回復状況について

2000年5月に地域性苗木 1を植栽した圏央道の切土のり面は、2009年6月現在で約9年が経過しています。

2008年から専門家の指導を受け、自然回復状況調査を実施しています。進入植物や土壌動物が複数確認され、自然回復が順調に進んでいると推測されます。地域性苗木を植えたことで、のり面が周りの生態系に近づき、周辺環境保全に寄与しています。のり面は周りの森との区別もつかないほどになり、景観の保全にも役立っています。地域性苗木は継続して、圏央道や新東名、新名神などの建設現場で植栽しています。



【2000年5月 植栽当初】



【2009年5月】



【進入した草類】

【植えた地域性苗木】

	植栽当初	事後調査結果
樹木の高さ	約50cm	3～6mの大きさに成長
進入植物	なし	シダ類、ワラビ類、イヌシデ、エノキ、ヌルデ 他
土壌動物	なし	ミズ、ムカデ、アリ、アブ幼虫、甲虫幼虫 他

八王子工事事務所は8月に、圏央道の建設事業や自然環境保全の取り組みなどを紹介する「圏央道フェア」 2を、国土交通省の協力を得て開催します。

生物多様性条約第10回締約国会議の「COP10パートナーシップ事業」 3に「圏央道フェア エコロード展」として登録しました。

以上

【参 考】

- 1 高速道路が通過する地域に自生する樹木から種子を採取して、育成した苗木のこと
- 2 「圏央道フェア」の開催場所は、 JR八王子駅前 東急スクエアビル11階 入場無料
2009年8月6日(木)、7日(金) 両日とも11時～17時
- 3 <http://www.cop10.jp/aichi-nagoya/partner/list.html>



地域に自生する樹木の種を採取します



地域性苗木をのり面に植えます



ポットやトレイに入れビニールハウスで発芽させます



植栽後複数年経過した地域性苗木



発芽した種を養土入りの袋で育成します



事後調査状況